

2020 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和2年3月2日

勝山市長 山岸 正裕

提案全体のタイトル	地域が一体となって人を育むまち ～ESD をエンジンとした持続可能なまちづくり～
提案者	福井県勝山市
担当者・連絡先	

# 1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

## 1.1 将来ビジョン

### （1）地域の実態

#### （地域特性）

#### 1. 勝山市の地勢と沿革

勝山市は、福井県の北東部に位置し、市の中心は福井市の東方約 28kmの地点にあり、南東は大野市に、南西は福井市、北西に坂井市、西に永平寺町、北は石川県に隣接している。また、市の周辺は 1,000m級の山々に囲まれ、石川県との県境にある加越国境の山々に囲まれた白山山系を源流とする九頭竜川の中流域に位置している。

市街地は九頭竜川の流れに沿って形成された河岸段丘に位置しており、明治以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業と古くから盛んな農林業を基幹産業とする水と緑の豊かな田園都市である。

なお、現在の市域は、1954(昭和 29)年 9 月 1 日、町村合併法により、勝山町、平泉寺村、村岡村、北谷村、野向村、荒土村、北郷村、鹿谷村、遅羽村の 1 町 8 箇村が合併し形成された。

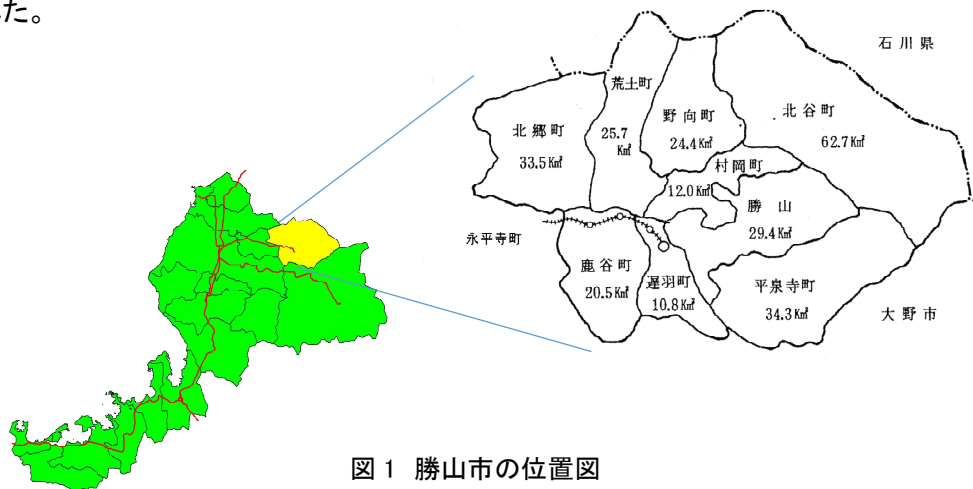


図 1 勝山市の位置図

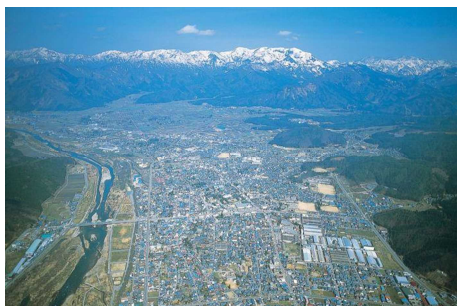


写真 1 勝山市の中心部全景

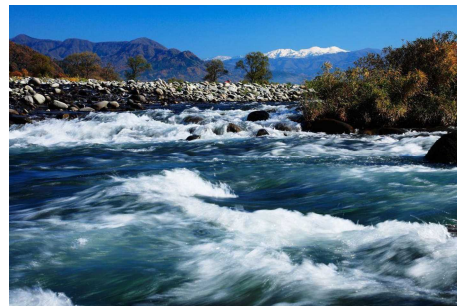


写真 2 九頭竜川と白山

## 2. 勝山市の現状

勝山市の人口は、2015(平成 27)年の国勢調査において 24,125 人であり、高齢化率は 34.0%となっている。国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口によると、2030(令和 12)年には、人口が 2 万人を割り込み 19,935 人、高齢化率が 41.2%となっており、その後も人口減少、高齢化が進展すると推計されている。

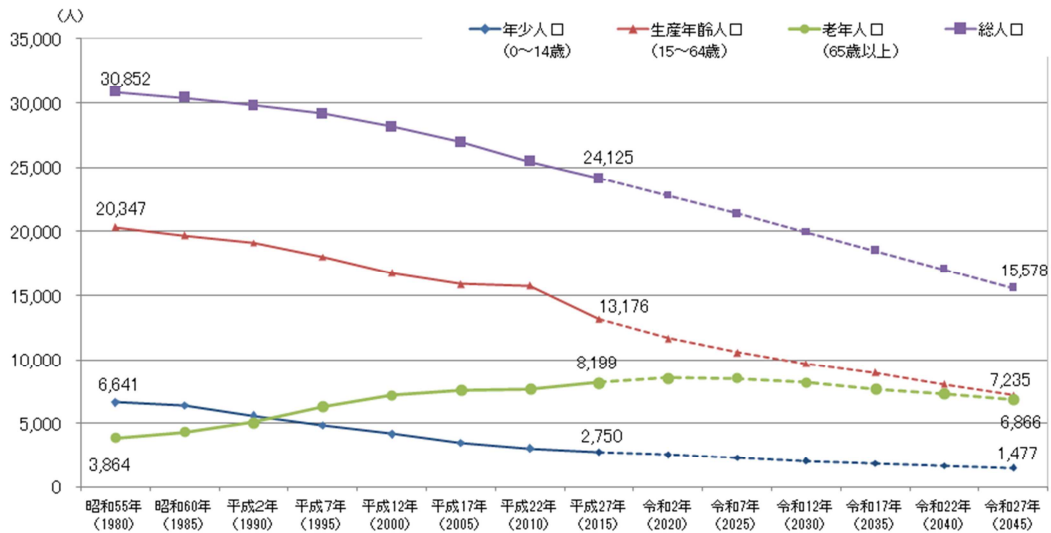


図 2 年齢 3 区分別人口の推移

資料：[～2015(平成 27)年]国勢調査結果、[2020(令和 2)年～]国立社会保障・人口問題研究所日本の地域別将来推計人口(2018(平成 30)年推計)を基に作成

### (1) 社会分野

勝山市のコミュニティの基盤は、1954(昭和 29)年合併時の 1 町 8 箇村を基礎とした 10 地区である。人口減少や少子高齢化に伴う人口構造の変化は、市民生活の基盤を支えるコミュニティ活動に影響を及ぼしている。

勝山市では、1954(昭和 29)年の市制施行以来、転出が転入を上回る社会減が続いており、2018(平成 30)年度の社会減は 210 人となっている。一方、自然増減については、長く自然増の状態が続いていたが、少子高齢化が進み、1993(平成 5)年頃からは死亡数が出生数を上回り、2018(平成 30)年度の自然減は 189 人となっている。

特に転出については、卒業時に進学する高等教育機関が市内に存在しないことから、大学等進学時期にあたる 18～22 歳時点で多く転出しているが、大学卒業時期にあたる 23 歳以降に転入する人数は、転出した人数の 3 分の 1 程度にとどまっている。これが 20～40 代の人口減少を招くとともに、出生数減少の遠因となっている。その結果、生産年齢人口が減少し、相対的にコミュニティの高齢化が進むことで、活力の低下を招いている。

こうした厳しい状況を乗り越えコミュニティの活性化を図るため、勝山市では 10 地区を基礎単位として 2002(平成 14)年からエコミュージアムによるまちづくりを推進してきた。エコミュージアムとは、“まちはまるごと博物館”の考え方のもとに、市民自らがまちの魅力を

発見し、それを磨いてアピールしていくまちづくりの手法である。

エコミュージアムによるまちづくりでは、勝山市独自の自然や風土、伝統や歴史、そしてこの地に培われてきた特有の文化とコミュニティによって成り立っている地域の「力」、それらを再発見し、地域の誇りにつなげることを理念としてきた。その結果、それまで地域に埋もれていた歴史や自然、産業遺産や伝統文化を地域住民が掘り起こし、地域住民が主体となって100を超える事業が実施され、古くて新しい勝山の魅力が醸成されてきた。この事業からは、勝山市の冬の名物「北谷の鯖の熟れ(なれ)ずし」や食用油の「野向のエゴマ」、  
「荒土の木炭」などが、商品化されてコミュニティビジネスへと発展している。

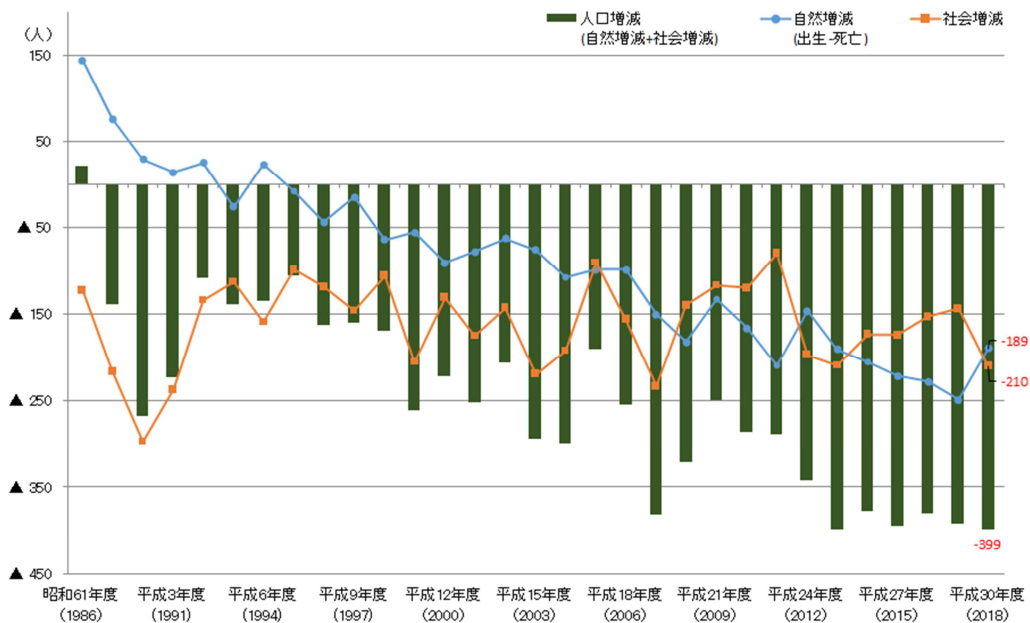


図3 人口増減の状況(自然増減・社会増減)

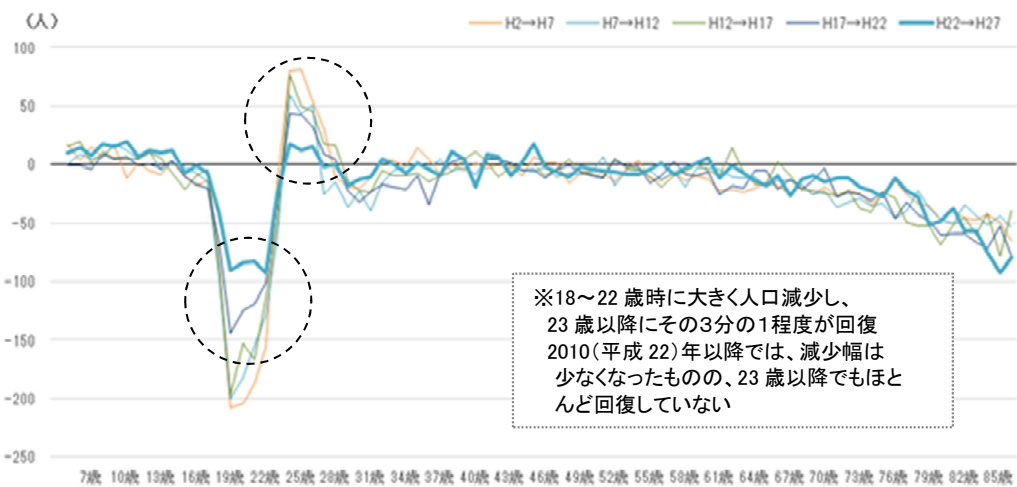


図4 各歳別人口の増減(総数)  
[x歳における(x-5)歳時との人口差]

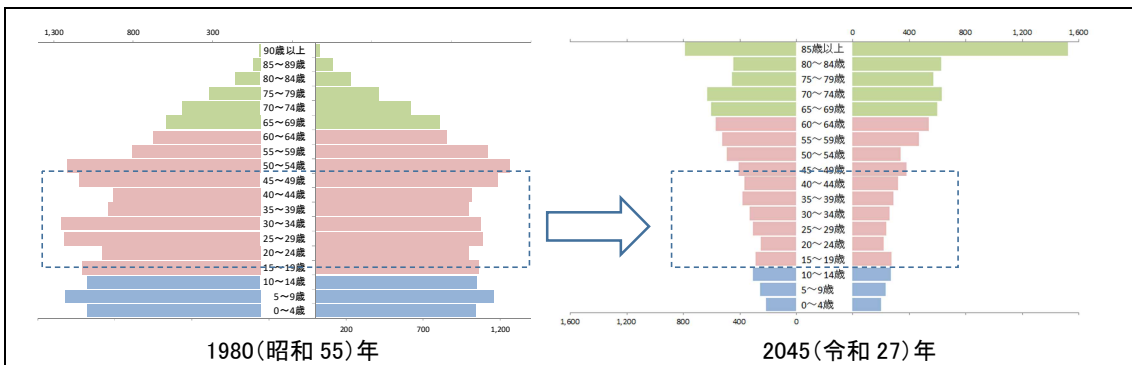


図 5 人口ピラミッド



写真 3 コミュニティビジネスでの商品

※ 左から「北谷の鯖の熟れ（なれ）ずし」、「野向のエゴマ」、「荒土の木炭」

## (2) 経済分野

1995(平成 7)年国勢調査によると、勝山市の 15 歳以上就業者数は 16,258 人、産業別就業者の割合は、第 1 次産業が 10.4%、第 2 次産業、第 3 次産業がともに 44.8%であった。しかし、2015(平成 27)年国勢調査では、15 歳以上就業者数が 12,480 人、産業別就業者の割合は、第 1 次産業が 6.3%、第 2 次産業が 35.7%、第 3 次産業が 58.0%と 20 年間で大きく変化した。

第 1 次産業の中心となる農業は、米のほか里芋、水菜、ネギなどの特産品づくりに取り組んでおり、2020(令和 2)年オープン予定の道の駅における出荷販売体制の構築など、農業経営の改善に取り組んでいる。しかしながら、人口の減少や高齢化に比例して、農業従事者数の減少や高齢化が進んだ影響から、耕作放棄地の拡大が年々深刻になっている。

また農業以外では、勝山市域の九頭竜川で獲れる鮎を「九頭竜川勝山あゆ」としてブランド化に取り組んでおり、漁業の振興を図っている。

第 2 次産業は、明治以来の地場産業である繊維産業が中心となっている。輸出による「外貨獲得産業」の側面を持つ繊維産業は、明治時代後期には絹織物、その後人絹(レーヨン)の産地として勝山市の産業を支えてきた。しかしながら、1970 年代のアメリカとの貿易摩擦やアジア諸国からの輸入の増加、1980 年代半ばからの円高の影響もあり、日本の繊維産業全体が、輸出産業から輸入産業へと変化し苦しい状況が続いている。

第1次産業、第2次産業の就業者割合が減少する中、第3次産業は就業者割合が増加している。勝山市は、世界三大恐竜博物館のひとつである福井県立恐竜博物館や、西日本最大級のスケールを誇るスキージャム勝山、日本遺産の国史跡白山平泉寺旧境内など、他の地域にはない観光資源を有しており、観光業を中心に産業構造が変化してきている。特に、福井県立恐竜博物館は、1988(昭和63)年夏、勝山市北谷町で肉食恐竜の歯が発見されて以来、日本における恐竜化石のほとんどが勝山市から発掘されていることから、この成果を発掘・研究・展示するための国内最大級の地質・古生物学博物館として2000(平成12)年にオープンした。

福井県立恐竜博物館を訪れる観光客は年々増加しており、同博物館があるかつやま恐竜の森には、年間100万人以上の方が訪れている。また、2016(平成28)年に中部縦貫自動車道永平寺大野道路が全線開通し、アクセスが向上したことも観光客が増加している要因となっている。

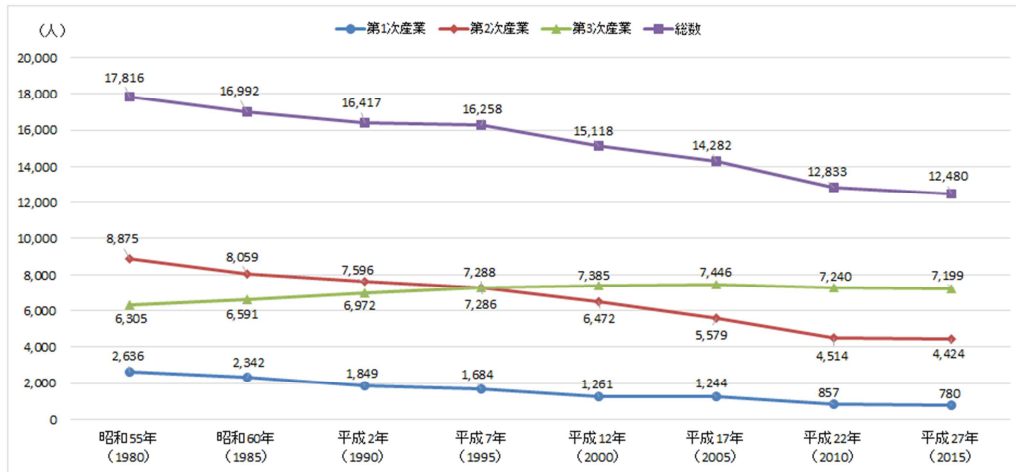


図6 産業別就業者数の推移

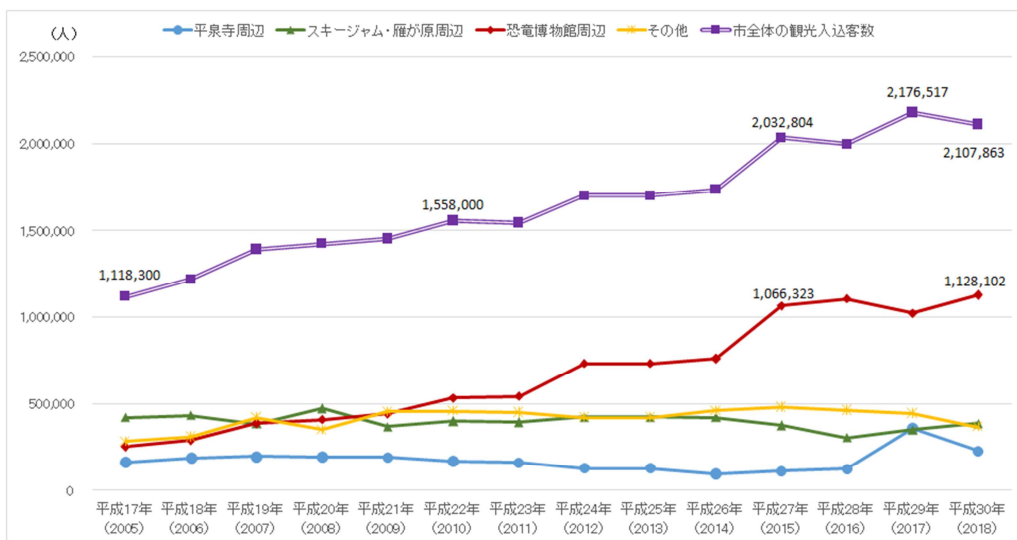


図7 観光入込客数の推移

### (3)環境分野

勝山市は、周辺の 1,000m級の山々と市を流れる九頭竜川を中心に四季の彩をはっきりと感ずることができる自然豊かな都市である。環境の多様さから生物の種類も多く、バイカモやミチノクフクジュソウ、ほたるといった日本固有種が生息し、また、フィールドワークに最適な多くの生物を育む湿原があり、全国的に減少していると言われる赤とんぼが、未だ多く生息しているなど、豊かな自然が残っている。

このような自然環境が評価され、2007(平成 19)年のアメリカの経済紙「フォーブス」の電子版では、世界で 9 番目にクリーンなまちとして紹介された。世界の名だたる有名都市、カルガリー、ホノルル、ヘルシンキ、オタワ、ミネアポリス、オスロ、ストックホルム、チューリッヒに続き、日本、アジアでは 1 位のランキングであった。これをきっかけに 2012(平成 24)年第 20 回環境自治体会議を開催、市民の環境意識の向上につなげた。

また、勝山市は地域の地形・地質遺産から、地球活動の歴史、自然と生き物の関わり、大地の恵みを利用する人々の暮らしや歴史・文化、産業などを楽しく学ぶことができる地域として、市内全域が 2009(平成 21)年に「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークに認定された。

このように自然環境やジオパークといった継続的に環境教育の拠点となり得る素材が多数あることから、小中学校を中心に環境教育を推進してきた。推進にあたり、初期には環境保全推進コーディネーターを配置して、教育関係者の情報共有システムの構築、地域独自の教材開発、教職員の研修と授業のサポートを行い、子どもに環境教育が身近な形でなじむよう配慮した。教育内容は、各小中学校がある地域に根差したものとなっており、外来種の駆除、ミチノクフクジュソウの保全、池ヶ原湿原の貴重な動植物の保全とその活用、バイカモが自生する川の再発見と浄化活動、ホタルの生育環境の保全などである。その後、この活動をベースに「かつやまスクール・エコ・プロジェクト」を始動して、子どもと地域が一体となった取り組みに発展させてきた。こうした活動はエコミュージアムと関連性が高いことから、地域住民のさらなる意識向上を図るため、勝山市ではエコミュージアムの理念に基づいた「エコ環境都市」の実現を掲げ、より高い視点に立った環境教育に発展させることを視野に入れて ESD(Education for Sustainable Development「持続可能な開発のための教育」)に取り組むこととした。

そこで、ESD を推進するべく、市の政策に「ESD の推進」を盛り込み、市全体で取り組んでいくとともに、市内全小中学校 12 校で、一気にユネスコスクールへの加盟を目指したところ、2014(平成 26)年 4 月に市内すべての小中学校が承認された。それ以降、自然環境やジオパークフィールドバックを活かし、「環境教育」、「ふるさと学習」の 2 つを柱にした ESD を展開している。



写真4 フォーブスの電子版記事



写真5 ESD 活動の様子  
上：ユネスコスクールの認定  
下：荒土小学校 炭焼きの様子

### (今後取り組む課題)

今後も急速に進行する人口減少や少子高齢化、高度経済成長期に整備したインフラや公共施設の老朽化、類を見ない速度で進む情報関連技術の高度化、全国各地で頻発する大規模災害、温暖化を中心とした環境保全意識の高まりなど、社会経済情勢は大きく変化していくことが予想されている。このような情勢の中、将来にわたって地域経済を持続可能なものとし、市民が安心して快適な暮らしを営むことができるまちづくりを推進するため、以下の課題に取り組んでいく。

#### (1) 社会分野

人口減少、高齢化に伴い地域活動が停滞し、コミュニティが維持できなくなることが危惧されている。コミュニティ活動が停滞することで、地域住民のつながりが希薄になり、生活に関する相互扶助や伝統文化等の維持、災害時の応急対応や復旧、復興も困難になる。また、人口減少の進展による公共交通や医療などの住民サービス縮小が人口減少の加速を招く恐れがある。

人口減少の大きな要因として、勝山市で育った人材が進学等を契機に市外に転出し戻ってこないことが挙げられる。こういった人材が勝山市に残る、または戻ってくるために、小中学校からESDを推進することで、人材を育成していくことが期待できる。



## (2)経済分野

人口の減少が地域経済の縮小を招き、産業構造を変化させている。

勝山市で古くから営まれてきた農業では、農業従事者の減少や高齢化から担い手が不足し、休耕地の拡大が年々深刻になっている。さらに農地や森林での人間活動の低下は、イノシシやシカなどの鳥獣被害を招いている。漁業も含め第1次産業に共通する課題は、担い手不足であり、その主な要因は生産者の所得が減少していることである。今後は、生産者の所得向上を目指していく。

第2次産業においても労働力不足が深刻であり、経済活動の不振につながっている。こちらも農業と同様、労働者の高齢化、担い手不足が顕著であり、また後継者が不在のため廃業されるケースもあるなど、事業承継問題が表面化している。勝山市特有の地域資源を活かした付加価値の高い産業を創出し、地域の経済活動を発展させる。

第3次産業は増加している観光客を背景に、就業者全体に占める割合が増加しており経済活動が活発になっている。今後、エコミュージアムにより再発見した各種遺産、食文化を含む伝統文化、福井県立恐竜博物館、スキージャム勝山、国史跡白山平泉寺旧境内などの観光施設、恐竜時代からの地球活動の歴史、自然と生き物の関わり、大地の恵みを利用する人々の暮らしや歴史・文化、産業などを楽しく学ぶことができる恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークなどの観光資源を最大限に活用し経済の活性化に取り組む。

## (3)環境分野

ESDに取り組むことにより、身近な環境を客観的に見直し、地域の魅力や問題点を認識し、そこからよりよい社会にするためにできることを自分たちで考え、発信できる子どもが育っている。例えば、勝山市立平泉寺小学校では、地元にある池ヶ原湿原の調査と再生保全活動を実施し、外来種の駆除をはじめ、夏の湿原を維持するためにヨシの除去を行っている。さらに除去したヨシを使用して「ヨシストロー」を開発し、廃プラスチックによる環境問題が深刻化する中、地球にやさしいストローを広めようと児童が制作したものを、地元のレストランに寄贈している。また、勝山市立勝山北部中学校では、「北中まちづくりプロジェクト」がスタートし、母校の意気込みを表現した、オリジナルのステッカーやクリアファイル、タオルなどを、市の支援を受けて作成・商品化し、地区の祭りなどで販売するなど、環境保全だけにとどまらない活動に発展している。

こうした活動に代表されるように、小中学校で推進している環境教育をベースにしたESDは、児童生徒たちに自分たちのまちである勝山市を見つめなおし、魅力的な誇りに思えるまちにしたいという機運の醸成につながっている。今後は、ESDをさらに推進し、市内唯一の高等学校である福井県立勝山高等学校と市内小中学校の連携に取り組み、次世代を担う人材の育成を図る。

## (2) 2030 年のあるべき姿

### 【2030 年のあるべき姿】

勝山市が今後持続可能なまちであるためには、これまで 20 年近くエコミュージアムを推進することで培ってきた市民による活動や経験を活かし、さらに発展させるため、ジオパークの理念のもと、勝山市特有の自然、歴史や文化、産業、人の暮らしなどの地域資源を守り、活用していく必要がある。そのためには、社会、経済、環境、そして文化といった人と人のつながりを学び、持続可能な社会を志向するための基礎を育むため、ESD の理念は大変有効であると考え。さらに学びを通じて、当事者として社会への参画を促し、具体的に持続可能な社会へのビジョンを描く人材を育成する必要がある。

ESD による“ひとづくり”こそが、世界が目指している SDGs のエンジン機能であることから、小中学校を中心とした活動から高校生、そして大人までを巻き込み、勝山型 ESD を構築し、持続可能な社会づくりのための担い手を育て上げていく。

この理念を成し遂げるため、勝山市では ESD を柱として、これまでの取り組みや本市の強みを最大限活かして、以下の取り組みを推進していく。

#### 1 ひとづくり ～勝山型 ESD を構築し次世代の地域の担い手を育成～

- (1) 小学校からまで一貫して ESD 活動に取り組むことができる体制を構築する。
- (2) ジオパークのフィールドも通じて学べる恐竜や古生物といった勝山独自の魅力をテーマとして、高校と大学の連携を図る。また連携を図ることで、火山や恐竜、古生物等の専門的人材を育成する。
- (3) ジオパークを活かして住民(大人)への ESD を推進する。

#### 2 まちづくり ～担い手による地域の魅力向上～

- (1) ESD を通じて社会への参画を促すため、小中生からの提案等を市政に反映させる仕組みを構築し、地域の魅力向上に取り組む。
- (2) ジオパークや恐竜などの専門的人材等を活かして観光資源の魅力向上に取り組む。

#### 3 しごとづくり ～地域の魅力向上により多くのひとを引き付けるまち～



- (1) 福井県立恐竜博物館やスキージャム勝山、国史跡白山平泉寺旧境内などの観光施設のほか、エコミュージアムにより再発見した各種遺産と ESD で育んだ地域の人材を観光振興に活かす体制を構築する。
- (2) 着地型観光など勝山市独自の魅力を活かした観光商品を開発し、観光産業の振興を図る。

#### 4 ひとの流れを創出 ～産業の振興に伴う新しい人の流れの創出～

- (1) 産業の振興による雇用の創出を図る。
- (2) 雇用を創出し、U・I ターンを増加させ転出超過を抑制する。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8.3 8.9	—	
	—	—
 12.b	—	
	—	—




第1次産業における喫緊の課題は、生産者の所得向上である。2020(令和2)年春にオープンする勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」を活用し販路の拡大を図るとともに、マーケットインの発想で6次産業化を推進し、生産者の所得向上を図る。

第2次産業においては、地場産業の中心である繊維産業の不振が地域経済に大きな影響を及ぼしているが、古くから地場産業を支えてきた産業であり、オンリーワンの技術を持った企業もあることから、各企業の強みを活かした付加価値の高い商品開発などを推進し、競争力のある産業への転換を図る。

第3次産業は、恐竜やジオパークなど他にはない強みを活かして、より一層成長が見込まれている。引き続き魅力ある地域づくりに取り組み、観光の産業化を推進する。

上記はいずれも観光が鍵となることから、優先的なゴール、ターゲットとして8.3、8.9、12.bを選定した。

(社会)





ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 4.7	—	
	—	—
 11.3	—	
	—	—
 17.17	—	
	—	—

人口減少、高齢化の進展により地域コミュニティの衰退が危惧されているが、ジオパークをきっかけとしたまちづくり活動の活性化により、地域に活力が生まれている。また、ジオパーク学習と連動して小中学生のESDを推進したことにより、地域と学校のつながりが生まれ、小中学生によるまちづくりの活発化など新しい価値が創造されている。

地域と学校がつながることで、小中学生からの郷土愛が生まれ、自分が生まれ育った地域に関心がある次世代が育つ。また、子どもが地域に関心を持つことで、大人が子どもの将来に責任を感じ、持続可能なまちづくりへの意識改革が進む。

今後も持続可能なまちづくりを推進していくためには、人と人、人と自然環境などつながりのある全てと良好な関係を作る視点、現在だけでなく次世代までの持続性を考える視点を持つESDを中心とした教育が必要であることから、優先的なゴール、ターゲットとして、4.7、11.3、17.17を選定した。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 12.5 12.b	—	
	—	—
 13.3	—	
	—	—
 14.1	—	
	—	—
 15.4	—	
	—	—

勝山市では、エコミュージアムの理念に基づいた「エコ環境都市」の実現を掲げ、自然環境の保全を中心とした活動を推進してきた。自然環境を保全するには、次世代を生きる子ども達から地域社会に対し提言することが効果的である。そこで、「勝山スクール・エコ・プロジェクト」を始動して、子どもと地域が一体となった取り組みに発展させてきた。環境の保全といった社会課題は、経済とリンクすることで持続的になる。そこにはESDの考え方が不可欠である。

ESDの推進が持続可能な活動へとつながることから、優先的なゴール、ターゲットとして、12.5、12.b、13.3、14.1、15.4を選定した。

## 1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

※SDGs未来都市選定後の3年間(2020～2022 年度)に実施する取組を記載すること。





(1)自治体SDGsの推進に資する取組		
① ひとづくり ～勝山型 ESD を構築し次世代の地域の担い手を育成～		
ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 <b>4.7</b> 質の高い教育を みんなに	—	
	—	—
 <b>13.3</b> 気候変動に 具体的な対策を	—	
	—	—
 <b>17.17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう	—	
	—	—

**(1)小中学校と高校の連携体制を構築**  
 地元の高校である福井県立勝山高校では、2017(平成 29)年から、勝山市の現状と課題を調べる探究的な学習「勝山人」をスタートしたが、現在は独自のカリキュラムで行われている。今後は、小・中・高と一貫した ESD に取り組めるよう小中学校と勝山高校の連携体制を構築する。

**(2)地元と県内大学の連携を推進**  
 福井県立大学では、2013(平成 25)年に「恐竜学研究所」、2018(平成 30)年に生物資源学研究科古生物学コース(大学院)がスタートし、また 2024(令和 6)年までに「恐竜学部」が新設される。勝山において「恐竜」を活かした自然史分野の ESD を推進し、勝山高校と福井県立大学の連携を推進する。

**(3)住民ガイドを養成**  
 これまでジオパークによるまちづくりを推進して、地域住民の地域への愛着と誇り、新しい価値観による魅力の発見に取り組んできた。勝山市がどんな地形、地域の上に成り立っているのか、どんな生態系、風土、文化、人々の暮らしが育まれてきたかなど、また、災害に対する視点なども取り入れた住民ガイド(ジオパークガイド)を養成する。

② まちづくり ～担い手による地域の魅力向上～

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 11 住み続けられる まちづくりを 11.3	—	
	—	—
 12 つくる責任 つかう責任 12.5 12.b	—	
	—	—
 14 海の豊かさを 守ろう 14.1	—	
	—	—
 15 陸の豊かさも 守ろう 15.4	—	
	—	—


(1) 中高生からの政策提案を市政に反映

中高生が取り組む ESD は、課題解決能力を養うことを目的としており、解決に向けて多くのアイデアが生まれる。これらをアイデアだけに終わらせるのではなく、市政に反映することで、地域課題解決のきっかけにするとともに、中高生の地域への愛着、意欲の向上を図る。

(2) 専門的人材等を活かして観光資源の魅力向上

勝山高等学校と福井県立大学の連携を推進する中で、恐竜やジオパークなど自然科学分野の専門的人材との交流を図り、高校生と大学生が共にまちづくり活動に参画してもらう仕組みをつくり、さらなる観光資源の魅力向上を図る。また、ジオパークガイドにもまちづくり活動に積極的に参画してもらい、観光客をもてなす体制を構築する。

③ しごとづくり ～地域の魅力向上により多くのひとを引き付けるまち～

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8.3 8.9	—	
	—	—


(1) 多様な観光資源を有機的に結び付け魅力ある観光地域づくり

福井県立恐竜博物館やスキージャム勝山、国史跡白山平泉寺旧境内などの観光施設を有機的に結ぶとともに、エコミュージアムにより再発見した地域資源とESDで育んだ人材や企業等と連携しながら観光振興に活かす体制を構築し、他の地域にはない魅力ある観光地域づくりに取り組む。

(2) 観光の産業化を推進

魅力ある観光地域づくりと並行して、農商工との積極的な連携による観光誘客を促進する。

④ ひとの流れを創出 ～産業の振興に伴う新しい人の流れの創出～

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 12.b	—	
	—	—

(1) 雇用の創出

観光誘客を促進し、旅行業や宿泊業・飲食業・交通事業といった分野だけでなく2020(令和2)年にオープンする勝山市道の駅「恐竜溪谷かつやま」を活用し製造業・農林水産業など地場製品の需要拡大、それに伴う雇用の創出を図る。



## (2) 情報発信

### (域内向け)

広報紙やホームページ、SNS で情報発信を行うとともに、市主催の生涯学習講座、商業施設や公共施設でのイベントなどを通して情報を発信する。その他、2020(令和2)年から2021(令和3)年にかけて策定する第6次勝山市総合計画において、住民との意見交換会を通じて意識啓発を図る。

### (域外向け(国内))

日本ジオパークネットワークや環境自治体会議などを通じて、SDGsの取り組みを発信する。また、市外で参加する様々な会議や研修会、勝山市がテレビや新聞といったマスメディアに取り上げられる機会などを活用して情報を発信する。

### (海外向け)

福井県立恐竜博物館やスキージャム勝山に訪れる外国人観光客、また、海外でのセールスコールやアメリカ合衆国ハワイ州との交流事業などの機会を活かし、情報を発信する。

## (3) 普及展開性(自治体 SDGs モデル事業の普及展開を含む)

### (他の地域への普及展開性)

勝山市がこれまで推進してきたエコミュージアム、そしてジオパークによるまちづくりやESDは、普遍性を持つ活動である。しかしながら、この活動で生まれる成果は、それぞれの地域に根差したものであり各地域が均一になるものではない。各地域が持つそれぞれの個性を発揮させることで地域間の多様性が生まれ、それぞれが協力・連携しあえる関係になることから、多くの地域へ普及展開すべき事例である。

### (自治体SDGsモデル事業の普及展開策)

エコミュージアムによるまちづくりで取り組んだ事例、またその成果、ESDを推進するにあたり開発したカリキュラムなどを普及展開する。特に小中学校が一貫して取り組むESDは、全国的にも事例が少なく他の地域にとって大いに参考になる。

また、この活動を観光振興、さらに地域産業の発展につなげる事例を示すことで、全国の多くの自治体が抱える人口減少や少子高齢化、それに伴う地域経済の縮小に対する対応方法の一つとして、多くの示唆を提供する。

2020(令和2)年度からSDGsの目標達成に寄与する市民のまちづくり活動に対して支援する制度を新たに設けることから、市民主体のSDGs推進活動のモデルケースとなる。

## 1.3 推進体制

### (1) 各種計画への反映

#### 1. 第6次勝山市総合計画

2021(令和3)年を始期とし、終期がSDGsと同じ2030(令和12)年である第6次勝山市総合計画に、SDGsを盛り込んで策定する。

#### 2. 第2次環境基本計画

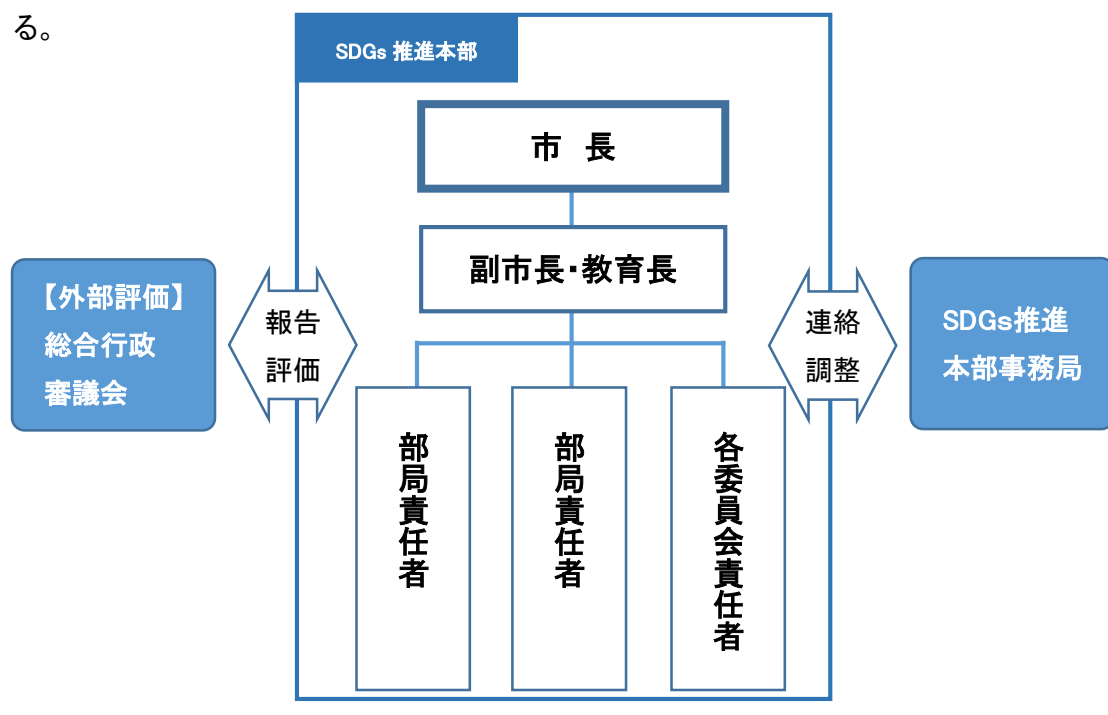
2019(令和元)年に策定した第2次環境基本計画については、SDGsを盛り込んでおり、終期を2030(令和12)年にあわせると共に、基本政策をSDGsの各目標と関連させて設定している。

#### 3. その他の計画等

上記以外の計画について、計画期間を終えるものから順次SDGsを盛り込んだ計画に改定する。

### (2) 行政体内部の執行体制

SDGsの推進は、行政のあらゆる分野に関わるものであることから、関係部局間の連絡調整を図り、全庁的に施策を推進するため、SDGs推進本部(仮称)を設置する。市長を本部長、副市長、教育長を副本部長とし、各課及び教育委員会等からなる構成員で組織する。



### (3)ステークホルダーとの連携

#### 1. 域内外の主体

##### (1)市民

SDGs の推進にあたり最も重要なステークホルダーは市民である。これまで続けてきたエコミュージアムによるまちづくりでは、市民が主体となって勝山市独自の自然や風土、伝統や歴史、そしてこの地に培われてきた特有の文化とコミュニティによって成り立っている地域の「力」を再発見することで、地域に誇りを持つ市民を増やしてきた。SDGsの理念である持続可能な地域社会を実現するには、ふるさとに愛着を持つ市民が、当事者意識を持って行動することが必要不可欠である。第6次勝山市総合計画の策定過程において、市民と行政が勝山市のあるべき将来像を共有し、実現に向けて連携して行動が起こせるよう機運の醸成を図る。

##### (2)小中高校生

持続可能な地域社会づくりの担い手は、小中高校生といった次世代を担う子どもたちが中心となる。小学校から高校まで一貫してESDに取り組むことができる体制を構築し、学校におけるESDを推進することにより、自分たちの生活と学習を統合し、持続可能な社会を思考するための基礎を育む。次に当事者として社会への参画を促し、最後は具体的な持続可能な社会へのビジョンを描けるような人材の育成を学校と行政が連携して取り組む。

##### (3)教育・研究機関

###### ①福井県立恐竜博物館

地域経済の活性化の鍵は、観光の産業化であり、その中心は世界レベルのリソースである「恐竜」コンテンツ及び福井県立恐竜博物館である。福井県立恐竜博物館は、2023(令和5)年に「オールシーズン体験可能な博物館にフルモデルチェンジ」をコンセプトに、収蔵庫増設や恐竜研究体験など機能を強化する予定であり、「恐竜」コンテンツに県と市が連携して取り組む。

###### ②福井県立大学

福井県立大学では、2013(平成25)年に「恐竜学研究所」、2018(平成30)年に生物資源学研究科古生物学コース(大学院)がスタートし、また2024(令和6)年までに「恐竜学部」が新設される予定であることから、県下または全国における自然史分野の教育環境モデルを連携して構築する。また、構築したモデルを推進し、未来の自然学者を育成し、その自然学者が地域の魅力向上に寄与するような循環を生み出す。

#### (4)まちづくり団体

##### ①恐竜渓谷ふくいかつやまジオパーク推進協議会

上記協議会は、勝山商工会議所や勝山市観光まちづくり(株)、まちづくり活動を担う NPO 法人のほか、福井県や福井県立恐竜博物館、勝山市などで組織されている。ジオパークの特徴は、恐竜時代からの地球活動の歴史、自然と生き物の関わり、大地の恵みを利用する人々の暮らしや歴史・文化、産業などを楽しく学ぶことができる点にあり、多くの小中学校で ESD の一手段として、ジオパーク学習プログラムが活用されている。今後も、上記推進協議会と連携し、質の高い ESD に取り組む。

##### ②各地区まちづくり団体等

勝山市のコミュニティの基盤は、1954(昭和 29)年合併時の 1 町 8 箇村を基礎とした 10 地区であり、まちづくり活動もこの単位が中心となっている。これまで取り組んできたエコミュージアムによるまちづくりもこの単位が基礎となり、地域に残る自然や風土、伝統や歴史、そしてこの地に培われてきた特有の文化などを再発見し、地域の魅力向上につなげてきた。また、これまでの取り組みからまちづくり活動を担う NPO 法人が設立され、コミュニティビジネスが生まれている。こういった各地区で活躍するまちづくり団体等と勝山市のあるべき将来像を共有し、持続可能な社会づくりに向けて連携を強化する。

#### (5)企業等

##### ①勝山市観光まちづくり株式会社

勝山市の地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、情報発信・プロモーション、マーケティングなど、観光を核としたまちづくりの中心的な役割を担う勝山市観光まちづくり(株)は、2020(令和 2)年 1 月に日本版 DMO に登録された。今後福井県立恐竜博物館やスキージャム勝山、国史跡白山平泉寺旧境内など観光施設やエコミュージアムにより再発見した各種遺産、食文化を含む伝統文化、ジオパークなどを活用し、観光の産業化を目指して連携を図る。

##### ②勝山商工会議所

産業構造の変化に対応するには、市内の商工業者を取りまとめる勝山商工会議所との連携が欠かせない。勝山市特有の地域資源を活かした付加価値の高い商品開発など、観光の産業化を視野に入れた取り組みなどビジョンの共有と連携を図る。

## 2. 国内の自治体

### (1)日本ジオパークネットワーク

日本ジオパークに加盟する全国の 69 地域とのネットワークを活用し、様々な角度からジオパークの要素を組み入れた持続可能なまちづくりについて、相互に連携を図る。

#### (2)越前加賀インバウンド推進機構

福井県と石川県の県境に位置する勝山市・あわら市・永平寺町・坂井市・加賀市には、評価の高い宗教文化や食・温泉・自然の造形美など、観光資源が多数存在している。しかしながら、人口減少時代を迎えるとともに国内の地域間競争が激化する中、中長期的には更なる国内観光客の増加の見込みは厳しい状況にある。今後は、海外からの観光客の誘致も推進する必要があり、越前加賀インバウンド推進機構を構成する4市1町との連携を強化する。

#### (3)福井県 SDGs推進協議会

日本青年会議所福井ブロック協議会が中心となって設立を予定している福井県 SDGs推進協議会の会員事業者等と連携を図る。

#### (4)ふくい嶺北連携中枢都市圏

福井市を連携中枢都市とする嶺北11市町(勝山市、福井市、坂井市、越前市、鯖江市、あわら市、大野市、永平寺町、越前町、南越前町、池田町)と連携し、地域の活性化、経済の持続性を図る。

### 3. 海外の主体

香港ユネスコ世界ジオパークなど、ジオパークのネットワークを活用し、世界ジオパーク加盟地域と交流、連携を図る。

#### (4)自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

小中や各地区まちづくり団体等において、ESDを推進しひとづくりに取り組むことで、市民の郷土愛が生まれ、自分たちの住むふるさとをより良くするための活動を活発化させる。

ふるさとをより良くするための活動により地域の魅力が向上し、観光客を惹きつける魅力的なまちをつくる。

観光客が増加することにより地域経済が活性化し、観光の産業化が推進されることで第3次産業を中心に雇用を創出する。

雇用を創出することによりひとの流れを変え、人口減少・少子高齢化に対応する。

## 2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

### 2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

#### (1) 課題・目標設定と取組の概要

##### (自治体SDGsモデル事業名)

地域が一体となって人を育むまち  
～ESD をエンジンとした持続可能なまちづくり～

##### (課題・目標設定)

- ゴール 4 ターゲット 4.7
- ゴール 8 ターゲット 8.3、8.9
- ゴール 11 ターゲット 11.3
- ゴール 12 ターゲット 12.5、12.b
- ゴール 13 ターゲット 13.3
- ゴール 14 ターゲット 14.1
- ゴール 15 ターゲット 15.4
- ゴール 17 ターゲット 17.17




##### (取組概要)※150 文字以内

小学校から高校まで一貫して ESD に取り組むことができる体制を構築するとともに、学校と地域が連携したまちづくり活動を推進する。この活動を地域の魅力向上につなげ、それを市内外に発信し、観光客の誘客促進につなげる。観光客の増加により観光産業の振興を図り、雇用を創出し、新しい人の流れをつくる。

## (2) 三側面の取組

### ① 経済面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.3 8.9	指標: 市内卸売業、小売業の事業所数	
	現在(2019年3月): 300店	2022年: 315店
	指標: 市の積極的支援策による起業者数	
	現在(2019年3月): 1人	2022年: 3人(年間起業者数)

#### ①-1 企業経営支援事業

福井県立恐竜博物館やスキージャム勝山、国史跡平泉寺白山神社などの人気の観光施設やエコミュージアムにより魅力が向上した地域資源を有効活用し、観光客の誘客を促進、地域経済の活性化を図る。2020(令和2)年春にオープンする勝山市道の駅「恐竜溪谷かつやま」がオープンするにあたり、地元商品情報発信拠点、テストマーケティングの場として活用する。

##### (1) 土産物等開発、販売販路拡大支援

市内事業者による新たな商品、土産品等の開発、販売販路の拡大を図るなど、経営改善に向けて支援する。




##### (2) 誘客促進支援

空き店舗等を活用した出店の促進、事業者が主体となって取り組む誘客促進のイベント等への支援、宿泊施設の改修を促進する。

##### (事業費)

3年間(2020～2022年)総額: 63,000千円

## ② 社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 <b>4.7</b>	指標: まちづくり団体・市民団体によるまちづくり活動件数	
	現在(2019年3月): 26件	2022年: 3年間の累計 30件(年間活動件数)
 <b>11.3</b>	指標: ジオパーク学習会への参加者数	
	現在(2019年3月): 487人	2022年: 500人(年間参加者数)
 <b>17.17</b>	指標: ジオパークガイドの出動要請件数	
	現在(2019年3月): 447件	2022年: 500人(年間参加者数)

### ②-1 ジオパークまちづくり推進事業

エコミュージアムの活動で培ってきた市民力、地域力をより将来に向けて発展させるためジオパークによるまちづくりを推進する。市民自らが実施するまちづくり活動を、よりジオパークの理念に即し、SDGsの目標達成に寄与する取り組みとなる事業を支援し、まちづくり活動の活発化を図る。

#### (1) ジオパーク学習会の開催

地域の人々が地域やジオパークに対する関心を高め、楽しんで活用してもらうことにより、地域アイデンティティの形成を図るため、ジオパーク学習会を開催する。

#### (2) ジオパークガイドの養成






市民や市外からの来訪者に対し、勝山市の貴重な地質と自然、そしてそこに暮らす人々の営みとの関わりを楽しく、魅力的に伝えることができるジオパークガイドを養成する。

#### (事業費)

3年間(2020～2022年)総額: 20,400千円



### ③ 環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12.5  12.b  13.3  14.1  15.4	指標: ジオパーク学習会への子どもの参加者比率 現在(2019年3月): 53.1%	2022年: 50%以上(年間の参加比率)

#### ③-1 エコ環境都市推進事業

エコミュージアムの理念に基づいた「エコ環境都市」の実現に向け、市民主体の環境美化および環境保全活動を支援する。また、勝山市に多く残る日本固有種の保護・保全に取り組むため、外来種の駆除活動を支援する。

#### ③-2 ESD 推進事業

小中学校での各教科や総合的な学習の時間等学校教育活動におけるESDを推進するため、地域の特色を活かした環境教育やふるさと学習、外部講師による専門的な学習の実施、現地へ赴いての見学や保全活動、交流活動等の実施を支援する。

#### (事業費)

3年間(2020~2022年)総額: 21,000千円

<b>(3)三側面をつなぐ統合的取組</b>
<b>(3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)</b>
<p><b>(統合的取組の事業名)</b> 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業</p> <p><b>(取組概要)※150文字</b> 三側面をつなぐ主役は市民であり、SDGsを推進するのも市民である。そこで、SDGsの理念を市民に浸透するために、市民に身近なジオパークを活用する。市民が主体となって実施する自然・歴史・産業などの地域資源の保護・保全、また各種体験事業について、SDGsの理念に沿ったものを重点的に支援する。 上記活動を将来にわたり継続していくためには、次世代の育成が必須である。各年代、世代間が交流し、ジオパーク学習と連動したESDを推進するための交流拠点を整備することにより、小学校から高校、そして住民までが一貫してESD活動に取り組むことができる体制が構築できる。交流拠点には、ジオパークや恐竜などの古生物を学ぶ市内外の高校生が集い、高校生をハブとして小中学生や大学生、住民とのつながりを強化していく。</p> <p><b>(事業費)</b> 3年間(2020～2022年)総額:35,400千円</p> <p><b>(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然環境等の保護・保全 勝山市に残る豊かな自然環境、ジオパークとして価値の高い地形・地質遺産などの保護・保全に取り組む活動を支援するとともに、活動を通じて環境教育を支援する。</li> <li>2 体験プログラムの実施 勝山市内の自然・歴史・産業などの地域資源を活用した各種体験プログラムを支援する。ただし、今後の継続性を鑑み、参加費が無料のプログラムは支援しない。(小学校等に対するプログラムは除く。)</li> <li>3 ジオツーリズムの実施 恐竜化石の発掘地に代表される勝山市内に点在するジオパークに関連するサイトなどや地域資源をストーリー化して巡る「ジオツアー」を支援する。ただし、今後の継続性を鑑み、参加費が無料のツアーは支援しない。</li> <li>4 特産品等の商品開発 勝山市内で収穫される農産物、勝山市内で調達される材料で製作されるお土産品、</li> </ol>

各種 PR グッズ等にジオパーク的なストーリーとロゴマークを付加して商品化する事業を支援する。

5 若者グループや地域で活動する女性グループの支援

これからまちづくりに参加していく若者グループや地域で活動する女性グループ等が実施するまちづくり事業を支援する。

6 勝山型 ESD 交流活動拠点整備

既存の空き家を改修し、ESD を推進するための交流拠点を整備する。

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1) 経済⇄環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 市内の希少動植物保全活動と外来種駆除活動の実施件数	
現在(2019年3月): 33件	2022年: 35件

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業を推進することにより、勝山市内の自然・歴史・産業などの地域資源の活用が促進され、経済面における各種体験プログラムやジオツアー参加者および料金収入が増加することで、環境面において料金収入を原資とした保全・保護活動が活発化するという相乗効果が見込まれる。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 行政、民間主催のジオツアーへの参加者数	
現在(2019年3月): 154人	2022年: 300人

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業を推進することにより、勝山市に残る豊かな自然環境、ジオパークとして価値の高い地形・地質遺産などに代表される優れた環境が積極的に保護・保全されることで、最大の地域商品の一つとなり経済面における観光客等の増加という相乗効果の創出が見込まれる。

### (3-2-2) 経済⇄社会

#### (経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 転入者人口	
現在(2019年3月): 401人	2022年: 455人

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業を推進することにより、勝山市特有の地域資源を生かした付加価値の高い特産品が開発されるなど地域経済が活性化することで、雇用が生まれ、新しい人の流れが創出されると見込まれる。

#### (社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 市内卸売業、小売業の事業所数	
現在(2019年3月): 300店	2022年: 315店

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業を推進することにより、市民主体の自然・歴史・文化など地域資源を生かした観光が成立し、経済面において観光客の増加に伴う地域経済の活性化という相乗効果の創出が見込まれる。

### (3-2-3) 社会⇔環境

#### (社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: まちづくり団体・市民団体によるまちづくり活動件数	
現在(2019年3月): 26件	2022年: 30件

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業を推進することにより、自然・歴史・産業など地域資源の魅力を市内外に発信することで、市民自らが地域資源の価値を再認識し、環境面における市民主体のまちづくり活動が活発化するという相乗効果の創出が見込まれる。

#### (環境→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: ジオパークガイド養成講座の受講者人数	
現在(2019年3月): 14人	2022年: 20人

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業を推進することにより、自然環境や地形・地質遺産などの地域資源を活用した活動が活発化し、社会面におけるESDや環境・ジオパーク教育が推進されるという相乗効果の創出が見込まれる。

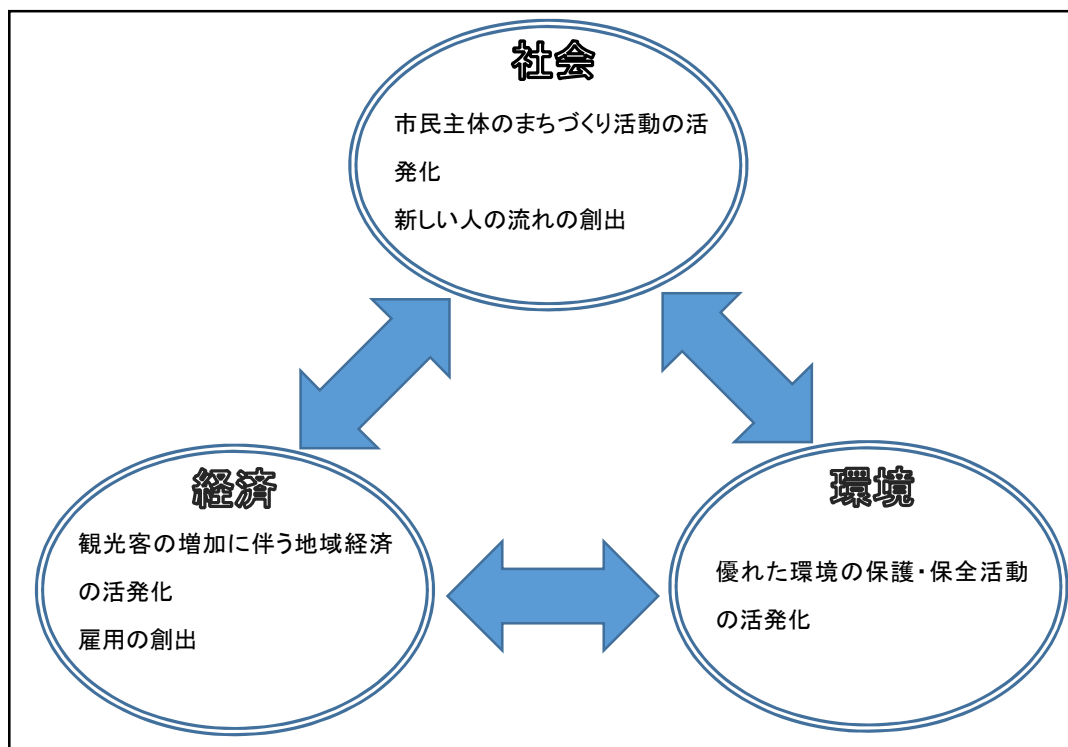
(4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業の推進にあたり行政と連携し事業全般を具体的に進めるプラットフォーム
各地区まちづくり団体	自然環境等の保護・保全、体験プログラムの実施にける連携
勝山市ジオパークガイドの会	ジオツアーの実施における連携
勝山観光ガイドクラブ	ジオツアーの実施における連携
勝山商工会議所	特産品等の商品開発における連携
テラル越前農業協同組合	特産品等の商品開発における連携
勝山市観光まちづくり(株)	体験プログラム、ジオツアーの実施、特産品等の商品開発における連携
福井県立恐竜博物館	恐竜・ジオパーク学習に関する連携
福井県	ジオパークの推進に関する連携
福井大学	ジオパークの推進に関する連携
勝山恐竜研究会	恐竜・ジオパーク学習に関する連携
NPO 法人恐竜のまち勝山応援隊	恐竜・ジオパーク学習、体験プログラム、ジオツアーの実施における連携
わくわく体験学習推進隊	恐竜・ジオパーク学習、体験プログラムの実施における連携

## (5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

### (事業スキーム)

持続可能なまちづくりを可能にするには、三側面をつなぐ主役である市民の活躍が欠かせない。そこで、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業」については、行政が市民の主体的な活動を後押しすることで、市民自らが自然・歴史・産業などの地域資源を活用した事業を実施し、そこで収益を確保できるように取り組む。



### (将来的な自走に向けた取組)

自然・歴史・産業などの地域資源を活用した体験プログラム、地域資源をストーリー化して巡るジオツアー、勝山市内で収穫される農産物、勝山市内で調達される材料で制作されるお土産品等の特産品など活用して収益を確保し、それを原資に活動を継続していく。



## (6) 資金スキーム

### (総事業費)

3年間(2020～2022年)総額: 124,800 千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつな ぐ統合的取組	計
2020年度	21,000	6,800	7,000	21,800	56,600
2021年度	21,000	6,800	7,000	6,800	41,600
2022年度	21,000	6,800	7,000	6,800	41,600
計	63,000	20,400	21,000	35,400	139,800

### (活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定 年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
環境・エネルギー教育支援 事業補助金(文科省)	2020	1,175	環境面の取り組みにおけるESDの推進に係 る部分について活用予定(申請済)

### (民間投資等)

特になし


(7)スケジュール

	取組名	2020年度	2021年度	2022年度
統合	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク活用事業	要綱決定 提案 募集・審査 事業開始 報告	【毎年度】募集→審査→事業開始→報告	
経済	企業経営支援事業 ・土産物等開発、販売 販路拡大支援 ・誘客促進支援	土産物等開発 要望調査、選定、整備・改修・支援 分析	【以降】土産物等開発、販売販路拡大	
社会	ジオパークまちづくり推進事業 ・ジオパーク学習会の開催 ・ジオパークガイドの養成	企画 開催 募集、研修(随時、受講生の確保に向けた取り組み)	【毎年度】企画→開催	
環境	エコ環境都市推進事業	環境美化・保全活動 外来種駆除活動		
	ESD 推進事業	各学校のある地域の特色を活かしたESDの推進		

2020 年度 SDGs 未来都市全体計画提案概要 (提案様式2)

提案全体のタイトル: 地域が一体となって人を育むまち ~ESD をエンジンとした持続可能なまちづくり~	提案者名: 福井県勝山市
--	--------------

全体計画の概要:ESD による“ひとづくり”を推進し、市民主体の“まちづくり”につなげ、まちの魅力が向上し、多くの観光客を呼び込むことで“しごと”が生まれ、地域経済が活性化することで“産業”が振興し、その結果、雇用が創出され“ひと”の流れが変わるといった好循環を生み出す。

1. 将来エンジン	<b>地域の実態</b>	<b>2030 年のあるべき姿</b>
	人口減少・少子高齢化が進展する中、エコミュージアムによる市民主体のまちづくりに取り組み、地域の魅力を向上してきた。今後は、既存の観光施設とエコミュージアムにより再発見されたリソースを活かし、産業振興に取り組む。	勝山型 ESD を構築し、次世代の地域を担う“ひと”を育成し、その“ひと”が SDGs の理念に沿った“まち”をつくり、その“まち”の魅力を向上することで観光を中心とした産業が振興し、新しい人の流れをつくる好循環を生み出す。
	<b>2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット</b>	持続可能な社会の構築という視点を持つ ESD を推進することにより、小中学生からの郷土愛が生まれ、地域に関心がある次世代の担い手が育つ。その人材が、主体となって活動を始めた時、持続可能な社会が構築される。
		

2. 自治体SDGsの推進に資する取組	<b>自治体SDGsに資する取組</b>	<b>情報発信</b>	<b>普及展開性</b>
	小・中・高と一貫した ESD に取り組めるよう小学校から高校までの連携体制を構築するとともに、高校と大学の連携を推進し、切れ目ない育成体制を構築する。この仕組みで生まれた人材をまちづくりに活かし、魅力ある地域づくりに取り組む。そこから観光誘客に結び付け、観光の産業化、地域経済の振興を図る。	広報紙やホームページ、SNS で情報発信を行うとともに、市主催の生涯学習講座、商業施設や公共施設でのイベントなどを通して情報を発信する。勝山市が所属する日本ジオパークや環境自治体会議などを通じて、SDGsの取り組みを発信する。	エコミュージアムによるまちづくりや ESD は、普遍性を持つ活動であり、この活動を推進することで、各地域が持つそれぞれの個性が発揮される。その結果、地域間の多様性が生まれ、それぞれが協力・連携しあえる関係になることから、多くの地域へ普及展開すべき事例である。

3. 推進体制	<b>各種計画への反映</b>	<b>行政体内部の執行体制</b>	<b>ステークホルダーとの連携</b>
	現在、2021 年を始期とし、終期が SDGsと同じ 2030 年である第 6 次勝山市総合計画に、SDGs を盛り込んで策定する。2019 年に策定した第 2 次環境基本計画については、SDGsを盛り込んでおり、終期を 2030 (令和 12) 年にあわせると共に、基本政策を SDGsの各目標と関連させて設定している。	関係部局の間の連絡調整を図り、全庁的に施策を推進するため、SDGs 推進本部(仮称)を設置する。市長を本部長、副市長、教育長を副本部長とし、各課及び教育委員会等からなる構成員で組織する。	第 6 次勝山市総合計画の策定過程において、市民と行政が勝山市のあるべき将来像を共有し、実現に向けて連携して行動が起こせるよう機運の醸成を図る。その他、小中学校や高校、大学等の教育機関、まちづくり団体と連携を図る。
	<b>自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等</b>	小中高校や各地区まちづくり団体等において、ESD を推進しひとづくりに取り組むことで、市民の郷土愛が生まれ、自分たちの住むふるさとをより良くするための活動を活発化させる。ふるさとをより良くするための活動により地域の魅力が向上し、観光客を惹きつける魅力的なまちをつくる。観光客が増加することにより地域経済が活性化し、観光の産業化が推進されることで第 3 次産業を中心に雇用を創出する。雇用を創出することによりひとの流れを変え、人口減少・少子高齢化に対応する。	

自治体SDGsモデル事業名: 地域が一体となって人を育むまち  
 ~ESD をエンジンとした持続化可能なまちづくり~

提案者名: 福井県勝山市

取組内容の概要:

